

研究機能が分散する 社会を想う

Smips (知的財産マネジメント研究会)

研究現場の知財分科会オーガナイザー

山田 光利

自己紹介

- ・ 筑波大学 第三学群 工学システム学類 卒業
- ・ 工場用ロボットメーカーでエンジニア→知財部
- ・ 研究者向けイベントスペース 「博士のシェアハウス」
- ・ **アカデミアの未来を妄想する研究会**

研究会の紹介

- ・ 研究界隈で起こっている先進的な取り組みを紹介
- ・ 先進的 = 5年後に普通になってそう
- ・ 普通 = 多くの人に選択肢の1つとして認識されている

取り上げてきたテーマ

- ・ 研究開発特化型クラウドソーシング「ResQue」
- ・ 研究機関に属さずに「独立系研究者」として生きる
- ・ 博士課程への進学ではなくNPOを作って研究する
- ・ (来月開催) 学術系クラウドファンディングの是非
- ・ 学術系のテーマを扱った同人イベントの可能性について

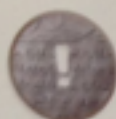
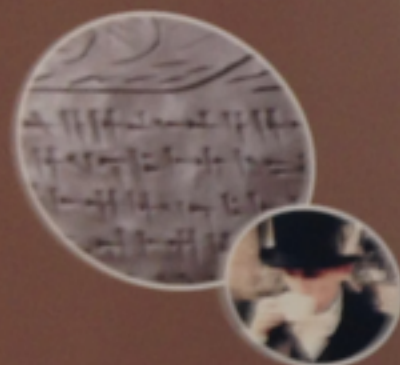
などなど・・・

事例紹介

博物ふえすていばる！

- ・ 2014年8月9,10日@科学技術館
- ・ 主催は博物系Tシャツブランドのパイライトスマイル
- ・ 「博物館に展示されてそうなもの」をモチーフに作られた作品の展示即売会
- ・ 作品に込められた「学術的な知見」を合わせて紹介する
- ・ 生物系作品に特化した「なまけっと」なども開催実績があり、歴史など他分野にも展開可能と思われる

空想神話屋 枇々木 聖



粘土板は、すごい。

○ 古代世界では数少ない、安価な筆記具

必要なものは、粘土と筆の筆だけ。インクも不要なので書き放題。世界中から多くの人が利用することができ、又かや数世紀の長寿への道が拓けます。

○ 書き直しも簡単、高速な筆記もできる

失敗しても修正ができるため、資料を無駄にすることがありません。筆跡は高速な筆記もできるので安価だけでなく、速くも正確な筆記が可能です。

○ 焼けて固まれば、千年単位で保存できる

乾燥で固まらなくても、保存性も抜群。乾燥後保存する必要がある場合、粘土を焼くことで資料がよけに千年単位の保存が可能です。



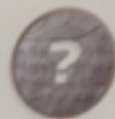
粘土板は、たのしい。

○ 簡単な道具で実際に書ける

専用のペンや筆で粘土板に文字を書き、実際に書きながら学ぶことができます。また、専用のペンや筆で粘土板に文字を書き、実際に書きながら学ぶことができます。

○ 文字、言語や古代世界など色々な分野に応用

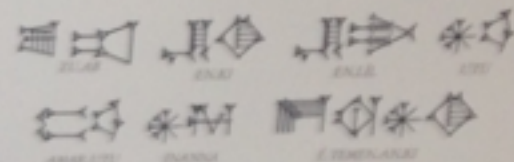
古代の世界や現代の世界、様々な分野に応用されています。また、専用のペンや筆で粘土板に文字を書き、実際に書きながら学ぶことができます。



いろいろな楔形文字

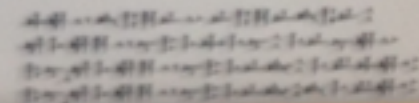
私達の世界の楔形文字

楔形文字はおよそ5000年前のメソポタミア文明で使われていました。初期に書かれたシュメール、その後継者バビロニアのアカド語、さらにエジプト語とギリシア語も書かれました。このように楔形文字は様々な言語で使われてきました。また、現代にも使われており、例えばインターネットのドメイン名にも使われています。



空想の世界の楔形文字

空想の世界の楔形文字は、現実の世界の楔形文字を参考にしています。空想の世界の楔形文字は、現実の世界の楔形文字を参考にしています。また、専用のペンや筆で粘土板に文字を書き、実際に書きながら学ぶことができます。



「空想神話屋」で検索すると
いろいろ出てきます



学術系イベントの集客

- ・ サイエンスアゴラ(2012) → 4,012人 ※2日の合計
- ・ 京大アカデミックデイ(2013) → 529人 ※1日
- ・ 博物ふえす(2014) → 3,814人 ※2日の合計

開催するにあたって

- ・ ○○分野の研究者にも関わって欲しい
- ・ ○○って展示してもいいの？

こういった課題を相談できる存在になれば、
研究を広報する上での良いパートナーになるのでは？

(参考) ゲーム業界の話

- ・ ゲームをプレーしている様子をニコニコ動画やYouTubeにアップする「ゲーム実況（ゲームプレー動画）」
- ・ 当初はネタバレや著作権の問題でメーカーは敵対視
- ・ 今やゲーム実況が「東京ゲームショーの公式企画」になったり、プレー動画の配信機能が「プレイステーション4の公式機能」になったりしている
- ・ やっていいこと・悪いことの線引きの主導権を握った上で巻き込む（仲間に引き込む）

知財部時代の経験より

- ・ 自分の役目は何かを決めることではない。**決定者が必要な情報を添えて、選択肢を提示することだ。**
- ・ (研究費獲得、研究戦略などの話を聞く限り)、**研究支援も同じではないか。選ぶのは研究者**
- ・ 判断を研究者に委ねるならば、ある程度**客観的に情報提供が出来る状態であるべき** (学問化の必要性)

まとめ

- ・ **大学の外で研究に関する多様な動きが始まった**
- ・ **研究支援のあり方として、それらの動きを積極的に巻き込んでいくべきではないか**
- ・ **選択肢の1つとして冷静に見るためには、共通の視点が必要であり、学問化を目指す意味はある**

と言いつつ、最後に

- ・ 大学の外で始まっている動きも「研究支援学」の対象として、各大学のURAで協力しながら議論を進めてもらいたい

その一方で、

- ・ (皆で協力等と甘っちょろいことを言っていないで) **どこの大学が他の大学を出し抜いてこういった動きを巻き込んでいくのか興味がある**

興味ある人ご連絡ください

- ・ **facebook「山田光利」** でやってるのでメッセください。（どこで会ったか分かる内容を添えて）
- ・ **twitter「2ndlab」** でやってるので@飛ばしてください。日々の情報発信はほぼこちら。
- ・ **ウェブサイト「学問の箱庭」** に日々の活動をまとめています。これまでの研究会のまとめ等はこちら。